

## 第1回 高等学校教育改革推進協議会 会議要旨

- |        |                         |
|--------|-------------------------|
| 1 実施日時 | 平成23年7月13日（水） 午後3時～午後5時 |
| 2 実施場所 | 千葉市美術館講堂                |

### 1 報告

- (1) これまでの経過と推進協議会のあり方について
- ・平成21・22年度の文部科学省の研究指定の状況と今年度の体制、及び推進協議会の方向性を説明。
- (2) 地域連携アクティブスクールの概要について
- ・地域連携アクティブスクールの概要を、プレゼンテーションを活用して説明。



### 2 協議

- (1) 準備校の取組について

#### 《協議内容》

地域連携アクティブスクールの平成24年度設置に向けた、泉・天羽両校の取組をもとに、準備を進める上での課題解決について協議を行った。

#### ア) 泉高校

- ・職員への共通理解を図るため周知を徹底する一方、準備委員会を開催し、細部に渡る検討を進めている。
- ・学び直しの「ベーシック」は生徒アンケートの結果も良好であり、さらなる充実を図っている。
- ・近隣の農地を借用し、2年生の総合的な学習の時間を活用し、農業体験を新たに導入した。地域住民から技術指導を受けている。
- ・中学校を訪問して、手応えを感じている。
- ・「アクティブ泉」と染めたのぼり旗を作成して、今後の広報活動に活用していく。

#### イ) 天羽高校

- ・広報誌の配布エリアを拡大し、HPの更新頻度を向上させるなど、地域への広報は大幅に充実した。
- ・現行の6コース制を見直し、24年度入学生から3コース制とする。

- ・二期選抜では口頭試問を実施する。意欲や思いを重視する入学者選抜の基準の設定が今後必要である。
- ・卒業時にどれだけ進路実現できるかが問われている。アクティブスクールの生徒の実情に合わせた新たな雇用の開拓が必要である。
- ・アクティブスクール推進に貢献できる職員の配置や生徒の単位修得に係る独自の仕組みや基準を用意する配慮が必要である。

#### 《主な意見等》

- ・準備校の校長が中学校を回ってみて、中学生や保護者、中学校の職員にどれくらい伝わっている実感があるか。
  - 中学校の校長・教頭・3学年主任等と話をしている。自立した社会人として送り出すことが重要であるが、今までの泉高校の取組を発展させていくものと受け止めていただき、手応えを感じている。
  - 入試に対する地域の反応は大きい。3教科に絞ることは、受検しやすくなるという意見がある一方、なかには、検査直前の指導に影響があるという意見もあった。
- ・農地を活用して作物を栽培、収穫する農業体験を行っていると思ったが、収穫し販売するという一連の活動ができれば、より実践的であると考え。コースとして発展できればよい。普通科でも、農業・工業・福祉等の内容・実習・授業があっても良いと考える。このことは、生徒の自主性を育むことになる。自らが学ぶことが重要だが、生徒の人間力・生活力アップのためにも必要と考える。
- ・農業体験が軌道に乗り、収穫・販売まで実施するような場合には、地元のショッピングセンターとして、協力することが可能である。
- ・広報について言うなら、入試に関することは大きなインパクトがあるのは間違いない。小学校で身に付かなかった内容は中学校で指導している。中学校で身に付かなかったことは、高校でていねいに学び直しをしていただいているが、「ある意味、当たり前のことである」と中学校側は見ている。「そこまでやっているのか」というインパクトがないと、中学校へは伝わらないだろう。
- ・本校（中学校）では、子どもたちを手厚く指導するため、加配された職員をやりくりして、教頭も8時間授業を持ち、教諭は平均で21時間授業を持っている。どの中学校も同様と思う。
- ・ていねいに文書を持って回るということではなくて、どれくらい子どもたちがすばらしい体験ができるか、どれだけ条件整備ができるかということがないと、大きくは変わらないだろう。
 

加配がない中で、ていねいな授業をするためどのような苦労があるのか、伺いたい。

  - 一定の配慮はいただいている。今年度もやりくりして質を落とさないよう工夫

している。

→ 少人数授業や習熟度別授業を実施することの手応えを職員も実感している。商業の専門科目は希望者が5名でも開講した科目がある。その結果は、商業簿記の合格率に現れている。また、少人数授業を実施することによって、生徒が落ち着いて授業に取り組むことができる。

- ・千葉県らしさをどう打ち出すかという大きな課題を投げかけられたが、法令規則の許容範囲を県教委で検討できるならば、そこに千葉県らしさを見いだせる可能性がある。学校教育法施行規則85条もしくは86条に不登校の生徒を対象に教育課程を編成できる旨の規定があったと思う。小中学校では以前からとられていた措置だが、高校も対象となったことを柔軟に生かせば、道が開けるのではないか。検討いただきたい。

→ この規定と千葉県らしさがどう結びつくかは、別のことと考える。



## (2) キャリア教育支援コーディネーター・スクールソーシャルワーカーについて

### 《協議内容》

新たに配置したキャリア教育支援コーディネーター・スクールソーシャルワーカーが効果的に機能するための協議を行った。

#### ア) キャリア教育支援コーディネーター

- ・授業の参観などをおし、学校及び地域連携アクティブスクールの現状把握を最優先で行っている。
- ・進路指導室に常駐しながら、就職説明会や就業体験説明会に参加したり、外部の関係機関との会議に出席している。
- ・就職希望者の面接練習で面接官を務めるなど、就職支援を担当している。
- ・求人票が公開される時期になり、求人票を持参した事業所の担当者の対応や、求人票の整理をサポートしている。
- ・地域連携のためには学校の実情を正しく知ってもらうことが必要であり、地元の区長に説明しながら学校の広報誌を配布している。これを基盤として、学校のサポーター

となつていただく。

- ・今年度のインターンシップの状況を視察するとともに、次年度のインターンシップ受け入れ可能な事業所を開拓し、内諾を得たところもある。
- ・求人は昨年を下回っており、新たな受け皿を地域に求めたいが、可能性は未定である。リサーチを続けたい。

#### イ) スクールソーシャルワーカー

- ・家族に関する課題を抱えていそうな生徒について、養護教諭や教育相談部職員の協力を得て情報収集した（生徒への直接面接も行った）。
- ・情報を一元化し、スーパーバイズをもとに、養護教諭、スクールカウンセラー等と今後の方針をたてている。
- ・スクールソーシャルワーカーが入ったことで、家庭や兄弟に目を向けたところ、単なる不登校事案ではなく、虐待事案であることが判明し、児童相談所につなげた事例がある。
- ・月一回と勤務時間が少ないなか、他機関につながってもその後の変化を追い切れない面があり、勤務のペースが今のままでは、次回の勤務までの間に虐待が進行してしまう懸念がある。
- ・家庭訪問や機関訪問を実施したいが、時間の制約がありどこまでかかわるべきなのか試行錯誤している。
- ・週に3～4回来てほしいという職員の声もある。
- ・児童相談所や警察、市役所などつなげる機関は多いが、当該生徒が他校生徒と関係がある場合、どの程度情報を共有したらよいのか、決めかねている。

#### 《主な意見等》

- ・ニート・フリーターを増やさないためにも、地域連携アクティブスクールの取組を広げてほしい。
- ・ニートの高齢化が進んでいる。親が元気なうちはよいが、抱えきれなくなり深刻な状態になって初めて公的機関に相談するケースが多い。
- ・ジョブカフェちばを開設し、就労支援を行う一方、出張版のプログラムを作成・実施するなど要請に応じている。
- ・就職戦線を勝ち抜くことも大事だが、それだけでは不十分である。いわゆる七五三現象と言われるように、採用した社員が数年で退職するのは、企業にとっても損失であり、なんとかならないかという声がある。
- ・22年度から千葉県と県内の大学が協同し、キャリア教育の講座を開発しており、千葉大学は単位認定している。就職目的の支援講座ではなく、社会との関わり、働く意味を認識し、社会に適応する能力を早い時期から考えさせている。
- ・講義だけでなく、世代が近い社員との交流が好評である。

### (3) 県単独の研究指定校の取組について

#### 《協議内容》

県が「地域や生徒のニーズに対応した新しい学校づくり」の指定を行った3校の効果的な取組に向けた協議を行った。

#### ウ) 浦安南高校

- ・震災により校舎を一時移転しており、現在の校舎と従来からの受け入れ事業所の距離が離れていることなどから、インターンシップの希望者は例年より少なかった。
- ・県の研究指定を受けたが、今まで取り組んできたことを継続発展させていく。基礎習得の見直しの検討を始めた。
- ・ジョブカフェの他、商工会議所の協力を得て講演会を実施したり、企業を紹介していただいている。
- ・浦安市内の小中学校長に協力いただき、長期的な展望に立って学校改善に取り組み、地元出身者の比率を高めたい。
- ・学校が地域にできることをしないと連携できない。ゴミ拾い・保育園での読み聞かせなどのボランティアに取り組みたい。
- ・地域の組織を作っても話し合いだけでは継続できないので、楽しいイベントを計画したい。

#### エ) 流山北高校

- ・地元出身者が多く入学する環境が整いつつある。また、キャリア教育の取組が評価されてきた。
- ・生徒を授業に集中させるため向上がみられた取組とそうでない取組を職員全体で共通理解を図るとともに、子どもたちが興味を持てる指導方法を研究する。
- ・キャリア教育は学年中心の取組であったものを学校全体で取り組むよう改め、職員構成が変わっても対応できるようにしている。
- ・アンケートを中心に効果の検証を行う。
- ・生徒が地域にどんどん出ていくことが求められている。厳しい時期もあったが、「地域で高校生を育てないでどうする」という考えをもった方々に支えられ、乗り越えてきた。

#### オ) 勝浦若潮高校

- ・今までの研究の中で取り組んだことが多数あり、PDCAで検証しながら継続していく。
- ・国際武道大学、城西国際大学、東京海洋大学などとの高大連携をさらに進めていく。
- ・帯授業の研究を進めている。
- ・震災の影響もあり、就業体験の時期を延期し、受け入れ先の拡充を図る。デュアルシステムの実施についても研究中である。
- ・昨年度の就職率は96%であり、実践研究をとおして取り組んだ成果と考える。

- ・若潮セミナー（進路合宿）を実施した。

《全体を通じた意見等》

- ・ 1回目なのでいろいろな取組や新たに入った方々の紹介が主だったと思うが、次回の協議会で、まとめる方向性を示したり、課題を提起していただきたい。多様な話を聞くことができ参考になった。今後詰めていきたいと思う。
- ・ 5校から優秀な教員を長期研修生として千葉大学に送っていただきたい。地域連携アクティブスクールの研究をきっかけに、泉高校からは研修生を送っていただいた。この後も共通したテーマで継続していただき研鑽を積むと、関係する学校の実践に生きるのではないかと思う。長期研修生の派遣については、関係課の支援もお願いしたい。

